

今月は、夢を持って自分の道をひたむきに進む区民お二人の姿を紹介します。



厚別桜台少年剣道会 会長

加藤徳雄さん

いますか？

古くから受け継がれてきた剣道の教えを 未来を担う子どもたちにも伝えていきたい

「**剣**道の目的は人間形成であり、競技はその手段です。競技で頂点に立つのはただ一人。そのためにさまざまな努力をすることで、人間は成長していきます。チャンスが巡って来たとき、それを自分のものにできるのは努力した者だけなのです」と加藤さんは力強く言います。

このような剣道の教えは、古くから何世代にもわたって指導者から次世代を担う者たちへと伝えられてきました。加藤さんも、この教えを未来を担う子どもたちに伝えようと、約二十年間剣道を教え続けてきました。

加藤さんが子どもたちを指導する上で最も大切だと思ひ、常に心掛けていることがあります。それは褒めることです。一つ厳しいことを言った後に、必ず三つは褒めるようにしています。特に、習い始めの小学校低学年の子どもたちにとって、剣道の練習は苦しいばかりで多分、あまり楽しいものではないでしょう。褒めることで、そんな子どもたちの心をひきつけるようにしているのです。やがて本当に剣道が好きになれば、多少厳しい練習でも進んで行うようになります。強制的にはなく、褒めて子どもたちの自主性を引き出す。これが、加藤さん流の指導法です。

「厚別桜台少年剣道会を率いる加藤さんが率いて、今年で九年目になりました。現在、四十人の小中学生が剣道の練習に励んでいます。競技会で優秀な成績をおさめた子どもたちもたくさんいます。『頑張つて人一倍努力していた子どもが競技会で勝つたときは、うれしくて涙があふれました。子どもたちには、素晴らしい可能性があります。苦勞して一つのことを成し遂げた経験を、

大人になったとき社会で生かしてほしいですね。そして、頑張っている子どもたちの姿がいつも私の励みになっているのです」と加藤さんはうれしそうに話してくれました。



剣道の練習に励む、厚別桜台少年剣道会の皆さんと加藤さん

